

仏教の幸福 科学で再現

国家プロジェクトで社会実装へ

京都大学・熊谷准教授

仏教で得られる幸福感を、科学技術で再現する。そんな国家プロジェクトが、日本で始まろうとしている。ムーンショット型研究開発制度Ⅱ用語解説Ⅱを使い、5年間で50億〜100億円の研究予算を投じるビッグプロジェクトだ。統括責任者で京都大学人と社会の未来研究院（旧ころの未来研究センター）の熊谷誠慈准教授は「現代日本では、仏教が社会実装されていると言いがたい」と、研究に至った背景を語る。



熊谷誠慈（くまがい・せいじ）1980（昭和55）年、広島生まれ。浄土真宗本願寺派教順寺住職。京都大学大学院博士課程修了。京都大学ころの未来研究センター（現・人と社会の未来研究院）特定准教授を経て、20年4月に准教授就任。21年11月にムーンショット目標9のプログラムディレクター（PD）に就いた。専門は仏教学、ボン研究。

ムーンショット目標9の研究課題

コア研究	仏教・機械・脳科学で実現する安らぎと慈しみの境地
	多様なところを脳と身体性機能に基づいてつなぐ「自在ホンヤク機」の開発
	データの分散管理によるところの自由と価値の共創
	脳指標の個人間比較に基づく福祉と主体性の最大化
	逆境の中でも前向きに生きられる社会の実現
	Awareness Music による「ところの資本」イノベーション
	子どもの好奇心・個性を守り、躍動的な社会を実現する
	食の心理メカニズムを司る食嗜好性変容制御基盤の解明
	ところの可視化と操作を可能にする脳科学的基盤開発
要素研究	被虐待児、虐待加害、世代間連鎖ゼロ化社会
	AIoT による普遍的感情状態空間の構築とところの好不調検知技術の開発
	「私たちの子育て」を実現する代替親族制のための情報社会基盤の開発
	薬観と悲観をめぐるセロトニン機序解明

（大橋学修）

熊谷准教授が担当するのは、人々を魅了する野心的な国の目標「ムーンショット目標」のうちの「目標9」で、テーマは「2050年までに、ところの安らぎを活力を増大すること、精神的に豊かで躍動的な社会を実現することだ。心の状態を数値化し、仏

教などの智慧から得られる幸福感を、機械によって再現できるテクノロジーを開発する。

心を数値化、定義付け

昨年9月に採択され、11月に熊谷准教授のプログラムディレクター（PD）就任が決まった。今年3月には、国立研究開発法人科学技術振興機構が、熊谷准教授の下で研究を進める13人のプログラママネージャー

「テクノロジーの開発にあたっては、心を数値化し、数値で表す必要がある。気分」といふ質的であいまいな言葉ではなく、例えばネガティブな状態がポジティブな状態にあるのか、数値から判断できる。その上で、ネガティブならどれだけ抑制するか、ポジティブならどれだけ増進させるかを決める。

「こうした数値化の前提として欠かせないのが、そもそも「心とは何か」という定義だ。この点、熊谷准教授は「仏教は、心を明確に定義している」と語る。仏教には、心をいかに充足させるかという智慧もある。現代社会は、資本主義の

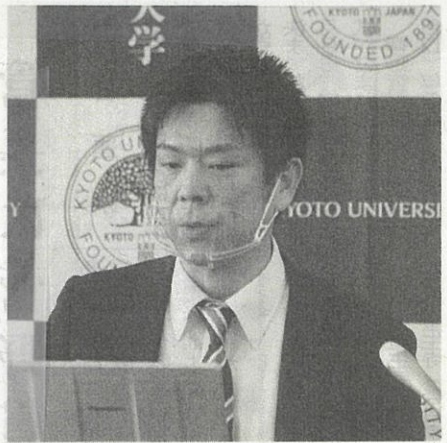
成熟によって人々が幸福になると考えられてきたが、熊谷准教授は、国連の世界幸福度調査を根拠に「収入と幸福度が比例するのは、衣食住が整う段階まで。以降は幸福度の上昇率が下がると説明する。また、同じく幸福をもたらしと思われてきた科学技術の発達についても、新型コロナウイルス感染症拡大にはなかなか太刀打ちできなかった。そうした背景から、

「心そのものを研究し、より良い状態を保つことができるテクノロジーの開発が求められるようになった」と、熊谷准教授は語る。

6面に続く

用語解説

▼ムーンショット型研究開発制度
従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づいた挑戦的な研究開発（ムーンショット）を推進する内閣府の制度。「人が身体、脳、空間、時間を制約から解放された社会を実現」など、2050年までに達成する九つの目標を掲げる。ムーンショットの呼び名は、1961年にケネディ米大統領が「アポロ計画」を発表し、8年後に有人月面着陸を成功させたことにちなんだ。



ムーンショット目標について説明する熊谷准教授

仏教は根付いているか

1面から続く

文化庁の宗教統計調査によると、2020年12月末現在の仏教の信者数は約8390万人で、日本人のほぼ3人に2人に相当。寺院数は約7万6800カ所で、コンビニエンスストア

(約5万5千店)を大きく上回る。だが、日本では仏教が政策に直接影響を与えることはない。一方、仏教国として知られ国民総幸福量(GNH)を重視してきたブータンでは、人々が一日に費やす宗教活動の時間は平均2時間

で、60代以上になると4時間を超えるという。教えや修行が生活に密着しているためだ。

日本でも、ブータンのGNHの考え方に学んだ東京都荒川区が独自の区民総幸福

福度を取り入れた例などがあるが、熊谷准教授はまず仏教が個人の生活様式に影響を及ぼし、変化が集団に広がってから、政教分離の原則に用語解説に立ちつつ国家政策に反映されるとみている。

「仏教の目標は悟りだが、苦しむ人々に幸福を提供することをオプシオンとして考えるべきだ。そうすれば、巡り巡って仏教が社会に実装される」

ムーンショット目標のテクノロジーは、個人に仏教